

Ⅲ.総合的な学習の時間

豊かな心と共に、運動感覚を刺激し、自分の健康・体力に気付かせる



総合的な学習の時間

ねらい!

第5学年／総合的な学習の時間
「心もからだもバリアフリー」計画例

- ★「パラリンピック」などバリアフリースポーツに取り組んでいる人々を知り、その運動を体験することにより障害のある方に対する理解を深める。
- ★共に運動したり、共にできる運動を創造したりする活動を通して、相手を思いやる心と自己の体への気付きを促す。

ポイント!

ここが

★バレーボールにスランテープを貼って音が出るように工夫



体験などに十分時間をとりたいですね。また、実際に障害者スポーツに取り組んでいる方と触れ合える機会が作れば、共に運動したり話を伺ったりすることもさせたいですね。そうした活動がより深い追究活動につながっていくことになります。

活動のねらいを常に意識しましょう。

- 子どもたちの主体性を尊重するあまり活動を広げすぎると、活動のねらいから外れてしまい学びが深まりません。「福祉」を切り口に「運動実践」に結びつける活動として、その方向性を子どもたちにも十分理解させておく必要があります。支援計画をもとにねらいに沿った支援をしましょう。
- 実際に障害者スポーツに取り組んでいる方と交流することによって、子どもたちはきっと運動がからだにいいだけでなく、心にも与える影響についても知るようになります。そうしたことが運動のよさをさらに認識し、自分の心とからだについて再認識し、日常の運動実践につながっていくことが期待されます。

相手を十分理解して活動に取り組みましょう。

- 障害のある方の気持ちに共感するためには、十分な体験が必要です。肢体不自由や視覚障害など車いす体験やアイマスク

課題を見つける段階

障害に負けずにスポーツに取り組んでいる人々を知ること

- 道徳の副読本 ●テレビ番組の録画
- インターネットのホームページなど

実際に会って交流したり、障害者スポーツを体験したりする

- 近くの養護学校や盲学校に行く
- 実際に運動に取り組んでいる方を招く
- シッティングバレーやゴールボールなどを自分たちで行う

自分の問題を持ち、全員の目標を決める

- 活動の方向性を決める



運動することが明日への活力になっているんだな。

障害のある方と一緒にできる運動をつくろう

実際にやってみるとすごくおもしろいね。

いつも確認しておきましょう 総合的な学習の時間のねらい

- (1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

用具や場・ルール工夫が追究活動の中心になります。

- どうすれば、障害のある方と一緒に運動ができるか。その課題を解決していくには、相手の立場に立って運動をアレンジしていくことです。音がよく鳴るような道具やスピードを遅くするための用具や場・ルールの工夫をしながら、健常者も障害者も楽しいと思えるような運動を自分たちで確かめつつ作り上げましょう。

人権には十分配慮しましょう。

- 子どもたちの発言など表現活動をする際には、人権に十分配慮するような指導が大切です。「そういう言い方をされたらどう思うかな?」というように、相手の立場に立って考えられるように助言しましょう。こうした支援に重点を置くことで、子どもたちの社会性が育ち、心豊かな子どもたちになっていくことも期待されます。

課題を追究する段階 みんなで障害のある方と一緒にできる運動「バリアフリースポーツ」をつくろう

どんな運動が一緒にできる運動になりそうか話し合う

- 今自分たちが楽しんでいる運動の中から考える
- 障害者スポーツとして行われているものをアレンジする
- 全く新しいものを考え出す

課題ごとのグループで実際に運動を試しながらバリアフリースポーツをつくる

- もともになる運動を探す
インターネット、書籍、メールなどの活用も
- 実際に運動して試す
障害者も健常者も楽しめるものになるかどうか考える
- 以前来ていただいた方に助言してもらう



足が不自由な方でテニスをしている人を知っているよ。大きなボールを転がして、テニスみたいにしようよ。

みんなで考えた運動でスポーツ大会を開かない?

「おとちゃんルール」って前に道徳の時間にやったの覚えてる?

ルールを工夫すれば視覚障害の方とドッジボールができないかしら。音の出るボールを作ればうまくいくと思うんだけど…

運動することを考えて「肢体不自由」と「視覚障害」ということに絞って考えるようにする。

アイマスクをしたり、車いすを使ったりして運動を試すことになるので、安全面での配慮を十二分に行う。

表現する段階

バリアフリースポーツ大会を開催する

- 自分たちの考えた運動を他のグループにもやってもらう
 1. いくつかつくった中から一番のおすすめを紹介する
 2. 発表者は集まった人たちに手本を見せるなどわかりやすく伝える。
 ※その運動をしっかりと楽しめるようにできるだけひとつの運動をじっくりと味わわせたい。
- 以前来ていただいた方に一緒に運動してもらったり、評価してもらったりする
- 単元全体の学習をふり返る



声をかけながら、肩に手をおいて一緒に長なわを跳ぼう。声や手の感触、音をよく聞けばタイミングよく跳べるね。

運動が心やからだにどのように影響を与えるものなのかふり返ってみましょう。



〈タイミング大なわ〉